



ばらばらで一緒

～美香保中だより～

発行 札幌市立美香保中学校

住所 東区北17条東6丁目1-1

電話 (011)-711-8151

第76回 卒業証書授与式

式 辞

校長 伊達峰史

雪解けが進み、木々の蕾が確実に春に向かってふくらみ始めています。この佳き日に、美香保中学校を巣立つ90名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。心から祝福申し上げます。

また、本日はPTA会長様をはじめ、学校運営協議会委員の皆様、地域の方々、そしてパートナー校の校長先生方など、多くの御来賓、保護者の皆様の御臨席を賜り、式を挙げてくださることを深く感謝申し上げます。

ただいま、卒業証書を一人一人に授与いたしました。受け取る皆さんの、若く透き通った眼差しを見ていると、この学び舎で共に過ごした日々が鮮明によみがえってきます。

皆さんはどの行事においても、私の期待をはるかに超え、自らの最高到達点を更新し続けてきました。修学旅行では「みんながみんなの中で自由に自分らしくられる」雰囲気築き上げ、学校祭では後輩たちの憧れとなる劇や、私の背後にある力強いぬぶた壁画、そして体育館入口にあるシンボルマークのオブジェを熱意をもって完成させ、たくさんの笑顔の華を咲かせました。そして、合唱コンクール、あの「大地讃頌」の圧倒的な響きは、聴く人の魂にまで届くものでした。

皆さんが示した、「一生懸命には一生懸命応える」という信頼関係と、自らの思いを実現していく自治の力こそが、本校の誇るべき伝統です。この三年間で培った一体感という強さを自信に変え、これからの新しい旅立ちのスタートラインに立ってください。

卒業生の皆さん、改めて、これまでの人生を振り返ってみてください。皆さんは、生まれてから今まで、数えきれないほどの「できるようになった幸せ」を積み重ねてきました。靴ひもを結べた時、自転車に乗れた時、難しい問題が解けた時——その一つ一つが、皆さん自身の成長の足跡です。しかし今、この節目だからこそ考えてほしいことがあります。これまでのあなたのそばには、常に支えてくれた大切な人がいたことを。そして、その日々がどれほど「やっもらう幸せ」で満ちていたかを。

「生きる」ということは、自分一人の力だけでは成し遂げられません。家族、先生、地域の皆様、そして笑い合い、励まし合った友達——多くの人の存在があってこそ、今のあなたがあります。そして、支えてくれた人への感謝の心が湧き上がる時、人は本当の意味で強く、大きく成長します。なぜなら、支えてくれた人たちの「思い」は、あなた自身の糧となり、大きな力へと変わるからです。これまで注いでもらった「やっもらう幸せ」を、これからは「人を支える力」として発揮し、「人にしてあげる幸せ」をたくさん感じられる大人へと成長することを願っています。

そこで、皆さんに贈りたい言葉があります。それは「克己利他(こっきりた)」という言葉です。

まず、平安時代の僧侶・最澄が説いた「忘己利他(もうこりた)」という考え方があります。これは「人を喜ばせるとき、自分の命が最も輝く。だから自分のことは後回しにしても他者のために尽くす。」という意味です。しかし私はこう考えたいのです。他者を大切にするためには、まず自分自身をしっかり持つことが必要だと。そこで大切なのが「克己」です。「克己」とは、自分の弱さや迷いに打ち勝ち、自らを律することです。自分を大切に育て、自分に克つ。その強さを持って初めて、他者を心から思いやる「利他」が可能になるのではないのでしょうか。

では、「克己利他」を体現するために最も大切なことは何か。それは、「一瞬一瞬の選択を大切にすること」です。これは今日、私が皆さんに最も伝えたいことです。私たちは日々、選択の連続の中にいます。未来とは遠いどこかにあるものではなく、「今」という瞬間が連続した先にあります。だからこそ、この「今」を前向きに、丁寧に選択してください。その積み重ねが、揺るぎない自分自身を築いていきます。

「ばらばらで一緒」——これは皆さんと出会ってからずっと伝えてきたことです。みんな違う“ばらばら”。その違いを互いに認め、生かし合ってこそ、本当の意味で「一緒」になれます。皆さんは本校で、その尊さを学んできました。

フランスの詩人ポール・ヴァレリーは言いました。「湖に浮かぶボートをこぐように、人は後ろを見ながら未来へ進む。見えるのは過去の風景ばかりだ。」と。これから未知の未来へ漕ぎ出すとき、皆さんの支えになるのは、この美香保中学校で培った経験や思い出という「過去の風景」です。美香保中は皆さんのかけがえのないふるさとです。

さあ、ここでの日々を胸に秘め、未来という大きな湖に向かって、胸を張って漕ぎ出してください。あなたを主人公とした物語はまだまだ続きます。

結びになりますが、保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。皆様の愛情は確かにお子様に通じ、本日、立派に義務教育を修了いたしました。これからは大人の社会へ一歩ずつ近付いてまいります。温かく見守っていただくとともに、人生の良き先輩として更なる御助言をよろしく願いいたします。

私ども教職員も、卒業生の健やかな成長を願い、永遠の応援団であり続けたいと思っております。地域の皆様には、本校教育への一層の御理解と御協力を重ねてお願い申し上げます。式辞といたします。

送 辞



厳しい冬の寒さも和らぎ、校庭にも少しずつ春の気配が感じられる頃となりました。本日、美香保中学校を卒業される三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して、心よりお祝い申し上げます。

先輩方と過ごしてきたこの二年間は、私たちにとってかけがえのない時間でした。振り返ってみると、その一つ一つの場面に、いつも先輩方の姿がありました。合唱コンクールでは、クラスや学年が一つとなり、美しい歌声をサンプラザホールにいっぱい響かせていました。美中オリンピックや体育大会では、仲間と励まし合いながら、最後まで全力で競技に取り組む姿がありました。どんなときでも全力で挑戦する姿は、私たちの憧れであり、目標でした。

その中でも、特に心に残っているのが学校祭です。私たち二年生が一年生のときに初めて迎えた学校祭は、三年生の皆さんのオープニングで幕を開けました。右も左も分からない中学校生活に、ようやく慣れ始めた頃の私たちにとって、学校祭は期待と不安が入り混じる行事でした。

しかし、舞台の幕が開いた瞬間、その不安は一瞬で消えました。息の合った演技、工夫を凝らした演出、細部までこだわった装飾。そのすべてが輝いていて、私たちはただただ圧倒されました。「中学校の学校祭は、こんなにもすごいものなのか。」と、胸が高鳴ったことを今でも覚えています。

そして今年の学校祭では、先輩方はその期待をさらに大きく超える発表を見せてくださいました。より洗練されたステージ発表、心を引きつける装飾、そして圧倒的な迫力の壁画。そこには、最後の学校祭にかける強い思いと、仲間との絆が感じられました。

先輩方はいつも、言葉だけではなく、その姿で「中学生としてのあるべき姿」を私たちに示してくれました。だからこそ私たちは、安心してその背中を追い続けることができたのだと思います。また、生徒会活動でも先輩方にはたくさんお世話になりました。初めての仕事に戸惑い、どうすればよいのか分からず困っていたとき、いつも優しく

声をかけ、丁寧に教えてくださいました。和やかな雰囲気の中でも、仕事になるとしっかりと気持ちを切り替え、責任をもって取り組む姿は、私たちにとって本当に頼もしい存在でした。そんな先輩方が卒業されることは、とても寂しく、不安な気持ちもあります。

しかし私たちは、先輩方がこれまで築き上げてこられた美香保中学校の伝統を、しっかりと受け継いでいかなければなりません。限界を決めずに挑戦し続ける「Break Through」という思いを胸に、私たち在校生はこれからも一步一步、着実に成長していきます。そしていつの日か、先輩方の背中に少しでも近づけるよう努力を重ねていきます。先輩方から受け継いだこの大切な伝統を胸に、今度は私たちがその思いを次の後輩たちへとつないでいきたいと思えます。

三年生のみなさんはこれから、新しい道へ進んでいきます。その先には、楽しいことだけでなく、不安や困難、そして高い壁に出会うこともあるでしょう。もし挫けそうになったとき、諦めそうになったときには、美香保中学校で過ごした三年間を思い出してみてください。共に歩んできた仲間との絆が、きっと皆さんの力になってくれるはずです。三年間で積み重ねてきた経験、知識、誇り、自立心、そして勇気。それらは、これからの人生の中で必ず皆さんを支える大きな力になるでしょう。

先輩方が夢に向かって踏み出すその一歩が、希望と幸せに満ちたものとなること、そしてその先に素晴らしい未来が広がっていることを、在校生一同心よりお祈りしています。

最後になりますが、卒業生の皆様のご健康と、今後ますますのご活躍をお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。



答 辞



厳しい冬の寒さの中にも、春の訪れを感じるこの出来る季節となりました。本日、私たち卒業生のために出席して下さった来賓の皆様、このような素晴らしい卒業式を挙行して下さった先生方や在校生の皆さん、そして、私たちの中学校での最後の姿を見に来て下さった保護者の皆様に卒業生一同、心より感謝申し上げます。

今、卒業式という晴れやかな舞台に立っていると、入学した頃を思い出します。3年前の春、着慣れない制服に身を包み、不安もありながら、この校舎で、第1歩を踏み出しました。同じ学年の仲間や先輩方、そして美香保中学校の先生方の、温かい雰囲気に触れる中で、その不安は次第に和らぎ、期待と楽しさへと変わっていききました。

1年が過ぎ進級した私達は、先輩と後輩のどちらの立場にもなり、1年生と3年生をつなぐ役割をもつことになりました。その中で、学校をより支えていこうという気持ちは日に日に増していききました。

中学校生活最後の春を迎え、最高学年になっていた私たち。行事も全て、「最後の」という言葉がつくようになり名残惜しく感じました。中でも、迫真の演技と、3年間培ってきたパフォーマンスを見せたステージ発表、今までの経験を生かして高度な技術を使い、校内を色づけた装飾、フィルムに収まりきれないほどの、思い出で溢れた学校祭は忘れられません。最後の学校祭に限らず、毎年、テーマソングが流れている放課後に仲間と、作業したあの時間は、今思えば最高の青春でした。

また、最高学年としての合唱コンクールでは、今までの集大成と考え、学級や学年の仲間と心をつなぐ、よりよい合唱を作り上げる中で、音楽を通して成長する喜びを知りました。1、2年生との合唱交流を重ねることで、学年の壁は次第に薄れ、学校全体が一つになっていくのを実感しました。今年度は、大谷大学の学生の方々にご指導いただき、声の響かせ方や、指揮、伴奏について学ぶという貴重な経験にも恵まれ、大きな成長につながりました。

私たちが過ごしてきた3年間では、全校生徒の声を聴く意見箱の設置、全市の中学校の代表が集まる「さっぽろっ子サミット」や、地域とつながる「みかほっ子サミット」の開催など、新たな挑戦がとても多くありました。繋がって、伝え合って、知っていく。そのような取り組みが多くなっていく中で、特に今年度行われた美香保中学校の伝統について他学年と語り合う、全校道

徳は、心に残る取り組みでした。この取り組みは、これまでにない経験であり、とても意義深い時間となりました。私達にとっては、自分たちが大切にしてきた思いを在校生へ託す、かけがえのない機会でもありました。

私たちの楽しさに満ち溢れた中学校生活には、支えて下さった方が多くいます。いつもそばに居て、私たちを支えてくれた先生方や職員の皆様には、大変お世話になりました。日々の授業から、普段の学校生活まで、いつも親しく接して下さり、時には、叱って下さり、私たちの進む道を正して下さいました。本当に3年間ありがとうございました。

また1、2年生の皆さん、受験生応援企画や卒業式に向けての、校舎の装飾などありがとうございました。皆さんが日々の生活で見せてくれる姿は、無邪気で明るく、私たちにとって、とても愛おしく思っていました。今後も持ち前の明るさで、学年間の壁を無くし、美香保中学校を笑顔の華が溢れる学校へと創り上げていってください。

そして保護者の皆様、私たちを15年間育てて下さりありがとうございました。言葉足らずで、迷惑や心配をかけた日々も少なくは無いと思います。保護者の皆様の支えのお陰で、今日という日を迎えることができました。まだ、もう少しそばにいらして下さる事にはなりますが、これからも支えていただければ、幸いです。

改めて、今思えば、仲間の笑顔が鮮明に思い出されます。部活動や委員会、日々の生活、たわいもない会話。全てが尊いものでした。この校舎でもう少し、もう少しだけ、仲間や後輩と過ごしたいという気持ちも、心のどこかにはあります。ただ、私達卒業生は、今日を節目とし、それぞれの決めた道に進んでいきます。今後、経験したことのない大きな不安を感じる場面もあるでしょう。ですが、この美香保中学校の校舎で学んだことを自分自身の強みとし、何事にも負けずに挑戦していきます。

最後になりますが、これからの美香保中学校のますますのご発展をお祈りし、答辞とさせていただきます。

【卒業生学級別生徒数】

	1組	2組	3組	5組
生徒数	29名	28名	29名	4名
合計	90名			

